

1 リニアレールシステムの特徴

4 方向等定格荷重

精密研削加工されたレールとブロックの転動面に4条列のボールが接触角度 45°で配置されているので、ブロックに作用する4方向(ラジアル方向、逆ラジアル方向、横方向)荷重が等定格荷重になります。

自動調整力

DFセットの正面組合わせ構造により、走行面の粗さ及びレベル誤差吸収能力に優れ、機械の高精度化が得られます。

高剛性

転動面のR溝構造設計により高剛性、高荷重が得られます。しかもレールは低重心の高剛性構造に設計されているので安定した直動運動が得られます。

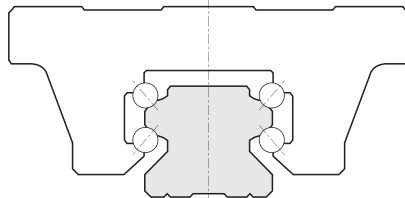
メンテナンスが簡単

潤滑、防塵方法を豊富に備えているため、メンテナンスが簡単及び長寿命、高精度が長時間得られます。

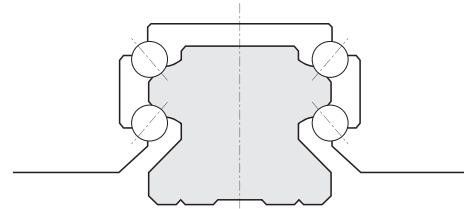
一週間納期

標準仕様品(P.591)なら希望長さのレールにて受注後一週間の納期です。

DF(正面組合わせ)構造



4列サーキュラーアーク溝2点接触構造



2 リニアレールシステムの選定手順

